将来、研究・開発リーダーを目指す学生の方へ
～日本学術振興会「特別研究員」制度のご案内～

1.日本学術振興会「特別研究員」とは

「特別研究員」制度は、独立行政法人日本学術振興会により行われている研究者養成事業の１つであり、優れた研究能力を有する**大学院博士課程在学者（DC）及び修了者等（PD）**で、大学その他の**研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」として採用し、研究奨励金を支給する制度**です。特別研究員として採用されると、研究奨励金（生活費）の支給のほか、**特別研究員奨励費（研究費）の交付**も受けることが出来るため、**安定した研究活動を遂行**することが可能になります。

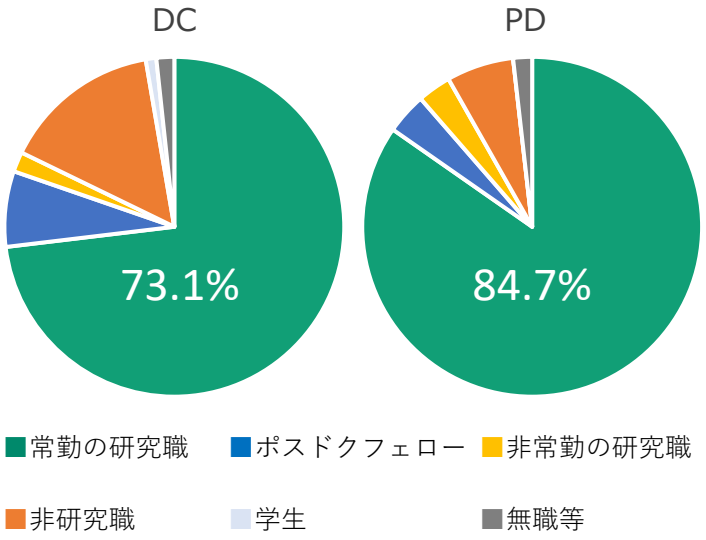
「特別研究員」制度は、優れた若手研究者に対し、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としていることから、本制度は、**研究テーマに対する助成ではなく、将来を担う優れた人材に対する国の投資**であると言うことができます。

したがって、特別研究員への採用は、国から投資に値する人材であると認められたことにほかならず、就職に際し、その経歴を履歴書に記載することができるなど**研究者として非常に高いステータスを得る**ことになります。

実際、右の表が示すとおり、特別研究員採用者のうち、その後、「常勤の研究職」として採用されている割合は、DCが約7割、PDが約8割という結果となっており、**選ばれし若手研究者**といっても過言ではありません。

特別研究員の就職状況調査結果

採用終了５年経過後就職状況
（日本学術振興会調べ（令和6(2024)年4月1日現在））



採用期間、研究奨励金及び研究費

区分	採用期間	研究奨励金（月額、令和7(2025)年度実績）	研究費（採用期間内総額）
ＤＣ１	３年間	200,000円	450万円以内
ＤＣ２	２年間		300万円以内
ＰＤ	３年間	362,000円（※1）	450万円以内（※2）
ＲＰＤ	３年間	362,000円（※1）	450万円以内（※2）

※1　日本学術振興会が実施する「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」により、雇用制度導入機関として登録された研究機関に雇用されたPD,RPDには、研究機関から研究奨励金と同額相当又はそれ以上の給与が支給されます。
※2　別途30%の間接経費も措置されます。

＜各区分の説明＞
DC1 ･･･大学院博士課程在籍者であり、残り在籍期間が3年間の者
DC2 ･･･大学院博士課程在籍者であり、残り在籍期間が2年以内の者
PD　･･･大学院博士課程修了者（博士の学位取得後5年未満の者）
RPD ･･･大学院博士課程修了者であり、子の出産・育児による研究中断から復帰した者

2．「特別研究員」採用後の支援等

「特別研究員」に採用された場合、研究奨励金や特別研究員奨励費による支援のほか、以下のような支援を受けられることも魅力の一つです。

（１）採用中の海外渡航

研究上の必要がある場合は、一時的に海外の研究機関で研究を行うことができます。特別研究員奨励費等により、通算して**特別研究員の採用期間の2/3を上限として渡航することが可能**であり、長期間にわたる海外での研究経験を積むことができます。また、日本学術振興会において海外の対応機関との連携により、特別研究員を対象とした海外渡航支援も行われております。

（２）出産・育児等のライフイベントに係る採用の中断及び延長

女性研究者に限らず若手研究者が働きやすい環境整備の一環として、出産・育児等のライフイベントに伴い研究に専念することが困難な場合には、**採用の中断及び延長が可能**となっています。

（３）研究奨励金及び特別研究員奨励費以外の資金援助

特別研究員は、採用期間中の研究専念義務の範囲内であれば、受入研究機関の寄附金・同窓会組織等による生活費相当の資金援助、自治体・民間企業等の公募による奨学金・助成金を受給することができます。

また、特別研究員としての研究課題がさらに進展すると考える研究を実施する場合には、特別研究員奨励費以外の研究費を受給することができます。

（４）（特別研究員PD・RPDのみ）研究機関における雇用

日本学術振興会で実施する「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」により「雇用制度導入機関」として登録されている研究機関をPD・RPDが受入研究機関として選択した場合、**研究機関において常勤職相当として雇用**されます。東北大学は「雇用制度導入機関」に登録されており、PD等の給与を82,000円/月加算するなど、同事業による支援に本学独自の支援を合わせた若手研究者支援を実施しています。

東北大学 webサイト

東北大学研究推進部 研究推進課webサイト

3.「特別研究員」に興味を持った方へ　-応募に向けた準備等-

１、２で述べた通り「特別研究員」制度は、研究者を目指す方々にとって、非常に魅力的で且つ重要な制度です。しかしながら、その採用率は決して高くはないため、**学部４年・修士１年等の早い時期から、情報収集や応募に向けた準備を各自で行っておく**ことが重要です。

令和7(2025)年度採用特別研究員　分野別申請数・採用数・区分別採用率

日本学術振興会調べ（令和7(2025)年7月1日現在）

区分		人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学系科学	情報学	生物系科学	農学・環境学	医歯薬学	採用率
DC1	申請数	438	487	755	484	834	398	482	442	639	14.3%
	採用数	62	66	109	68	120	57	70	64	92	
DC2	申請数	718	778	928	665	1,416	630	592	743	974	14.7%
	採用数	106	115	140	99	202	86	91	111	142	
PD	申請数	284	224	324	45	88	45	175	137	197	23.9%
	採用数	74	56	69	14	12	10	45	30	53	

準備①　できるだけ、申請までに自身の強みとなる業績等を作ろう

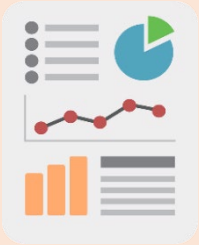
特別研究員の選考においては、①「研究計画の着想及びオリジナリティ」、②「研究者としての資質」についてそれぞれ評価がなされます。そのため、申請書も大きく分けて「研究計画」と「研究遂行力の自己分析」について記載することが求められています。

当該研究計画を実行する**研究者としての資質があるかどうかの判断材料となる「研究遂行力の自己分析」**欄には、「研究に関する自身の強み（研究における主体性、発想力、問題解決力など）」及び「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」を記入する必要がありますが、これらについて説得力を持たせるためには、エビデンスに基づいて記載することが不可欠です。その**エビデンスとして重要となるのがそれまでに積み上げてきた自身の研究業績**です。

よって、特別研究員を志す場合、特別研究員としてどのようなテーマの研究を行いたいのか、**指導教員に早めに相談**し、できるだけ申請までにそれを示すことのできる研究業績を書けるようにしておきましょう。特に、**筆頭著者で論文を書く**こと、**査読無よりも査読有の論文を書く**こと、**国際学会で発表を行う（筆頭著者として登壇する）**ことなどが重要になります。

研究業績の例

- **学術雑誌等に発表した論文**
- **国際学会における発表**
- **国内学会・シンポジウム等における発表**
- **優れた受賞歴**



準備②　申請書を書くための準備に早く取りかかろう

申請書の作成にあたっては、**研究計画を自らよく構想**し、**指導教員や研究室の先輩からのアドバイス・議論を経たうえで作成する**ことが重要です。特に申請書の中核となる**「研究の位置付け」**、**「研究目的、研究方法、研究内容」**、**「研究計画（採用期間中、何をどこまで明らかにしようとするのか）」**、**「研究の特色と独創的な点」**については**自らの文章で作文**し、指導教員や研究室の先輩に確認してもらったうえで**推敲を重ねる**ことが大変重要です。

採用者一覧（※）で過去の採用課題を確認することができます。
※ https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_saiyoichiran.html

なお、申請書の内容は毎年度少しずつ見直しがなされます。**応募年度の申請書が公開されたら、日本学術振興会ホームページより速やかに最新の申請書を入手**し、どのような記載が求められているのかを分析のうえ、それに対応することが必要不可欠です。

学内向けの**「日本学術振興会特別研究員募集等に関する説明会」**や、現役の特別研究員に直接申請等の相談をすることができる**「個別相談会」**を開催しています。このような催しに積極的に参加し有益な情報を入手しましょう。

本学の支援一覧

- **特別研究員募集等説明会（You Tube・３月頃配信）**
- **個別相談会（Zoom・3月頃）**
- **学振特別研究員への採用可能性がぐんとupするtipsの配付（3月頃）**
- **申請書作成上のチェックポイント、確認用チェックリストの配付（３月頃）**

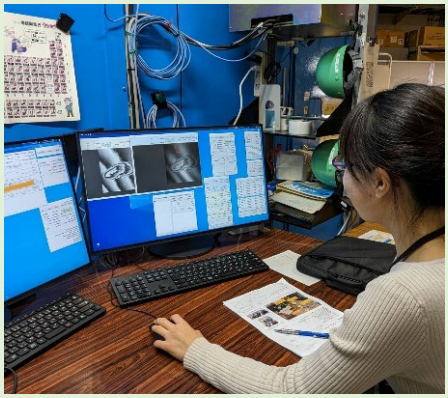
4.「特別研究員」採用者の声

最初の一文で伝える研究の特色と独自性

令和７(2025)年度特別研究員DC１採用
医学系研究科　　木村　森音
研究課題名：蛍光とX線のマルチスケール病態情報を用いた
静脈血栓症発症の理解と診断応用

私が特別研究員を目指した理由は、博士課程で安定して研究に専念できる環境を得たいと考えたからです。特別研究員に採用されると、生活費(3年間)と研究費が支給され、さらに本学の支援制度を利用すれば授業料も免除になります。研究費は学会発表や遠方の実験施設への出張（写真参照）にも充てられるため、研究を進めるうえで大きな強みとなります。

申請書の作成は2月頃から取り掛かりました。幅広い分野の審査員に理解していただけるよう、自分の研究の独創性・新規性を平易な表現で伝えることを心掛けました。特に「研究の位置づけ」は重点的に推敲を重ね、専門分野外の人にも読んでもらって改善点を指摘いただきました。その過程で自分の研究の立ち位置や今後の課題が整理され、申請書作成自体が貴重な経験となりました。特別研究員は研究環境を大きく広げる制度ですので、皆様にもぜひ挑戦をお勧めします。



放射光による位相コントラストCT装置を使った測定の様子

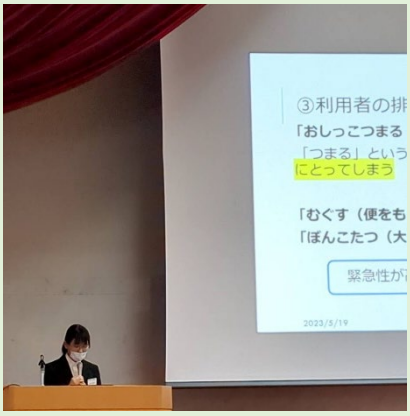
特別研究員申請の準備内容と採用後のメリット

令和７(2025)年度特別研究員DC２採用
文学研究科　　山田　はるか
研究課題名：介護現場を対象とした方言支援ツール作成モデルの構築

私は、所属研究室の先輩が特別研究員に採用されたことをきっかけに、特別研究員への応募に興味を持ちました。生活費・研究費が支給されるだけではなく、経歴の面でもプラスになると聞き、申請準備を始めました。準備にあたり、まず学内のイベントに参加したり、先輩方の申請書を拝見したりして、申請書の作成方法を学びました。作成を始めてからは、指導教員の先生にも何度も添削していただきながら推敲を重ねました。最終稿は家族にも読んでもらい、誤字脱字の無い申請書になるように細部にまで注意を払いました。

採用後は、生活費の支給によって金銭的な不安が解消され、研究に集中できることが大きな利点の一つだと感じています。また、私の研究は調査の際に旅費・謝礼等が必要となるため、研究費を支給していただけることが研究を円滑に進める上で大きな助けになっています。

皆さんのご活躍をお祈りしています。



日本方言研究会での発表

より詳しい情報を知りたい方は、日本学術振興会・東北大学のホームページをご確認ください。

日本学術振興会　http://www.jsps.go.jp/j-pd/

東北大学研究推進課　https://c.bureau.tohoku.ac.jp/kensui-top/3jsps/

© 2025 東北大学研究推進部研究推進課